

ろの字とや一論を企つ其者は立身出世の例なし

わの字とや一譯も分らぬ事柄を人に話して惑はず

ぬの字とや一石より堅き心にて爲せば成らざるこ

うの字とや一兎は疾く走れ共龜に負けたる談あり

ゑの字とや一榮耀永花を好まずに一層勵め子供達

をの字とや一治まる御代に生れきて君の恵みぞ忘

るゝな

子守歌

古 劍 生

○朝は早よ起き。心を正し、今日のつとめに、精を出せ。

○蔭とひなたの。隔てをつけず。子供だいに守をせよ。

○書にかいたら。見苦しからう。人の心の。奥底は。

○支那にかへした。遼東半島。永く忘るな。國の人。

○富士は高いが。それより高い。親の御恩を。忘るなよ。

○雀雀よ。何と曰うて鳴くぞ。君に忠。忠。いうてなく。

○鳥鳥よ。何と曰うて鳴くぞ。親に孝。孝。いう

自作の子守歌を印刷して子守等にやりましたが子守等はよろこんで聴きました

てなく。く

○子守する身は。行儀がだいじ。脊の子供の。手

本ぞよ。く

○子守する身も。暇ある時は。文字やお針を。稽

古せよ。く

○あねはお針に、妹は學校。わたしは守して。親

だすけ。く

○あの子仕合。學校に通ふ。わたしは守して。日

を暮す。く

○雀見たよな。小鳥でさへも。君に忠。忠。いう

てなく。く

○あれを聞かせ。鳥でさへも。親に孝孝。言て

ないか。く

懸賞質問題!!

左の如き質問題出たり。規定によりて讀者諸媛の解答を望む。但し本題は頗る有益有趣と認むるを以て解答の上乗なるものには賞品として

本誌一ヶ年分を呈すべく。又此場合に於ては本題提出者に向つては

本紙半ヶ年分を呈せんとす。乞ふ續々奮つて寄稿せられよ

向別に二題あれども、次第に譲れり。其他讀者の卓論玉説机上に堆積し、悉く登載するを得ず。意に背くこと甚だ大なり。漸次序を追うて掲載せんとす、乞ふ諒せよ、但し凡べて投書規定に従はれざるは是非なく没書するこゝどわりど知られたし。